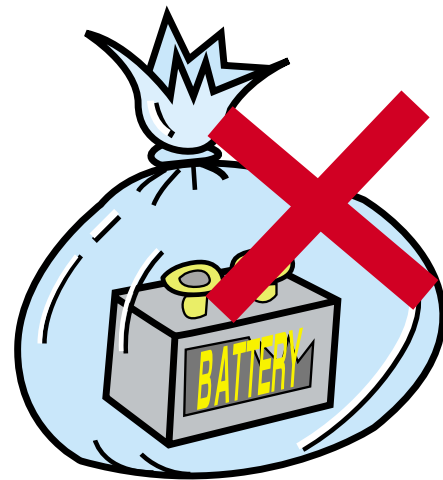


事業で使用したバッテリーの廃棄について

使用済みバッテリーは法に則って適正に処理する必要があります。バッテリーは鉛、希硫酸及びプラスチックが主な材料です。事業用に使用した使用済みバッテリーは廃棄物処理法上、特別管理産業廃棄物となります。

事業者自ら処分できない場合は、処分業の許可をもった処分業者へ委託しなければなりません。又、処分が確実に行われたことを確認するために管理票（マニフェスト）の発行・管理が必要です。



JEMAの取組み

- UPS及びバッテリーの取扱いに関するガイドラインを設定しております。
- UPS検査方法や用語に関するマニュアルを作っています。
- UPSに組み込まれているバッテリーの保守・交換を推進しています。
- UPSの普及のためのパンフレットを発行しています。
- 皆様のご意見を伺うアンケート調査をしております。
- この他ユーザの皆様のお役に立ちたいと考えています。

<p>関係規格等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●JEM1464 (2007) 無停電電源装置 (UPS) の試験及び性能判定基準 ●JEM-TR185 (1993) 汎用半導体交流無停電電源装置 (汎用UPS) のユーザーズガイドライン ●JEM-TR185 (追補1) (2009) ●JEM-TR186 (2007) 無停電電源装置 (UPS) のカタログ用語集 ●JEM-TR204 (2009) 汎用UPS用小形制御弁式 (シール) 鉛蓄電池ユーザーズガイドライン 	<p>BAJの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バッテリーの取扱いに関するガイドラインを設定しております。 ●バッテリーの試験方法や用語に関するマニュアルを作っています。 ●バッテリーの保守・交換を推進しています。 ●使用済み電池のリサイクル活動を推進しています。 ●この他ユーザの皆様のお役に立ちたいと考えています。
--	---

BAJの取組み

- JEM-TR215 (2009) UPS用御弁式据置鉛蓄電池ユーザーズガイドライン
- JEM-TR233 (2006) 無停電電源装置 (UPS) を医療機関へ適用する場合の技術指針
- JEMAパンフレット (2008) 汎用電気機器更新のすすめ
- JEMAパンフレット (2009) 情報化社会に安心を与えるUPS
- JEMAパンフレット (2011) UPSの更新は計画的に

人と社会と技術の調和
JEMA 一般社団法人日本電機工業会
 The Japan Electrical Manufacturers' Association
 〒102-0082 東京都千代田区一番町17番地4 TEL (03) 3556-5885
<http://www.jema-net.or.jp>

社団法人 **電池工業会**
 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN
 〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内 TEL (03) 3434-0261
<http://www.baj.or.jp/>

パンフレットへのアクセスは、[日本電機工業会のトップページ](#) → [オンラインストア](#) → [パンフレット\(無償\)はこちら](#) をご参照下さい。

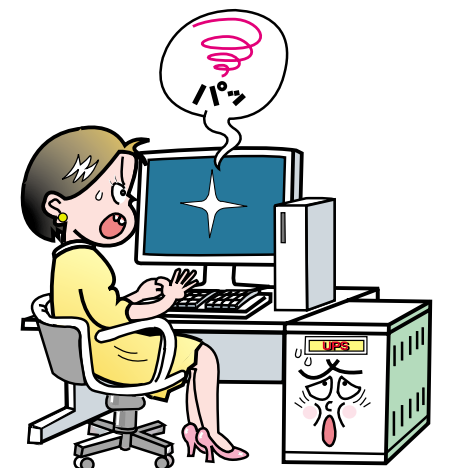
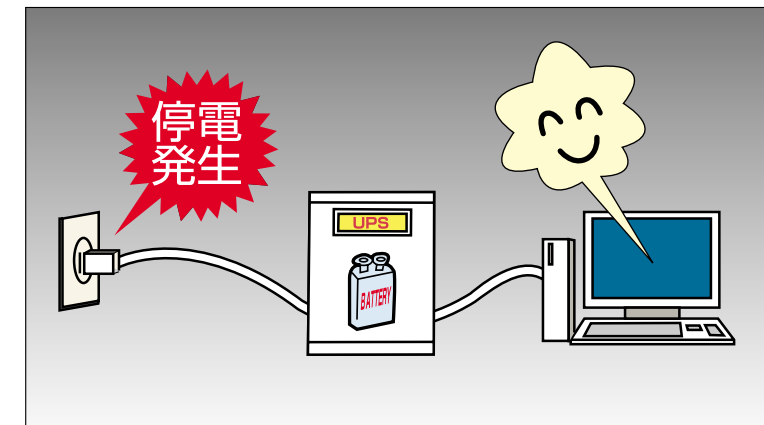
●お問い合わせは…

UPSの (Uninterruptible Power Systems) バッテリー交換は 計画的に

ご案内
 UPSをお使い頂いているユーザの皆様やこれからご購入を予定されているユーザの皆様、UPSに使われているバッテリー保守についてのご案内を申し上げます。

停電時はバッテリーがエネルギー

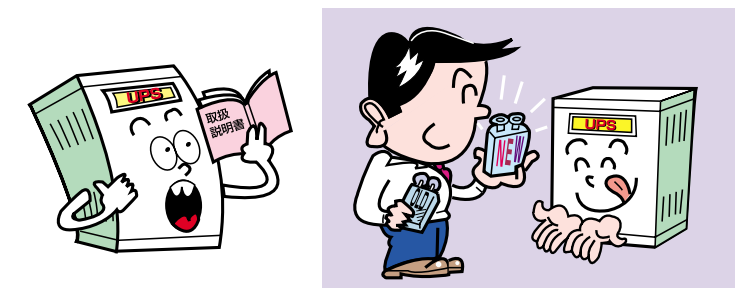
UPSのバッテリーは、商用電源停電時の代替エネルギー源として、通信システムやコンピュータなどに電源を供給し続ける重要な役割を担っています。よって、バッテリーの性能が維持されていない場合は、期待されるバックアップ時間を保てずにUPSは停止してしまいます。



点検と計画的なバッテリー交換でいつもフレッシュ

バッテリーの性能維持と安全性の確保は、ユーザの皆様へ管理をお願いします。設置環境を含めた点検・管理、製造業者又は専門業者による定期点検、計画的な交換を必ず行っていただくようお願いします。

1. 設置環境の維持管理・自主点検
2. 製造業者又は専門業者による定期点検
3. 計画的な交換



人と社会と技術の調和
JEMA 一般社団法人日本電機工業会
 The Japan Electrical Manufacturers' Association

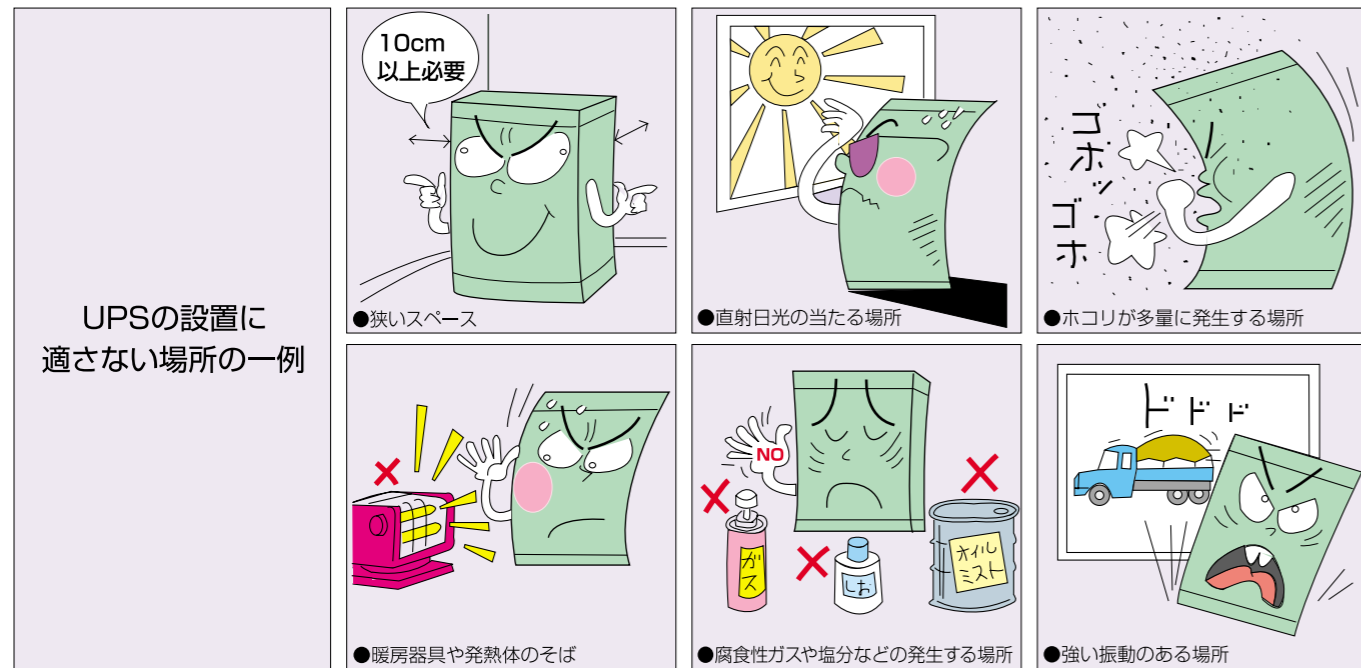
社団法人 **電池工業会**
 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

UPSのバッテリー交換は計画的に

1. 設置環境の維持管理・自主点検

■UPSもやさしく扱ってください

UPSに組み込まれているバッテリーの性能及び寿命は、設置環境によって大きく変化します。UPSを設置するときには環境に配慮してください。維持管理もお願いします。バッテリーは温度が高くなると寿命が短くなります。



■自主点検でバックアップ時間を確認する場合

実負荷による模擬停電試験を行う場合の注意事項をJEM-TR204「UPS用小形制御弁式鉛蓄電池ユーザーズガイドライン」(JEMA発行)より抜粋します。実施に際しては、交換時期を過ぎていたり、使用環境などの原因でバッテリーが寿命期に至っているおそれがあるので、必ず負荷機器が停止しても支障がない状態で行ってください。

1) 試験条件

試験は、負荷機器への電源供給が停止しても支障がない状態で行う。

UPSに模擬停電試験機能がある場合は、取扱説明書を参照する。

2) 試験方法・判定基準

交流入力を人為的に停電させ、使用開始時に測定したバックアップ時間の1/2以上、運転可能であることを確認する。

例えば、バックアップ能力として初期に10分間放電可能な蓄電池の場合には、バックアップ時間が5分未満になったときを寿命の目安とする。

詳細は、製造業者の取扱説明書を参照する。



2. 製造業者又は専門業者の定期点検

製造業者又は専門業者による定期点検時に、外観点検(異臭、電槽の異常な膨張、き(亀)裂、端子部腐食の有無など)、端子電圧測定、内部インピーダンス測定などによって異常があった場合は、寿命と判定します。交換してください。

■バッテリーはだんだんとやせ細ってしまいます

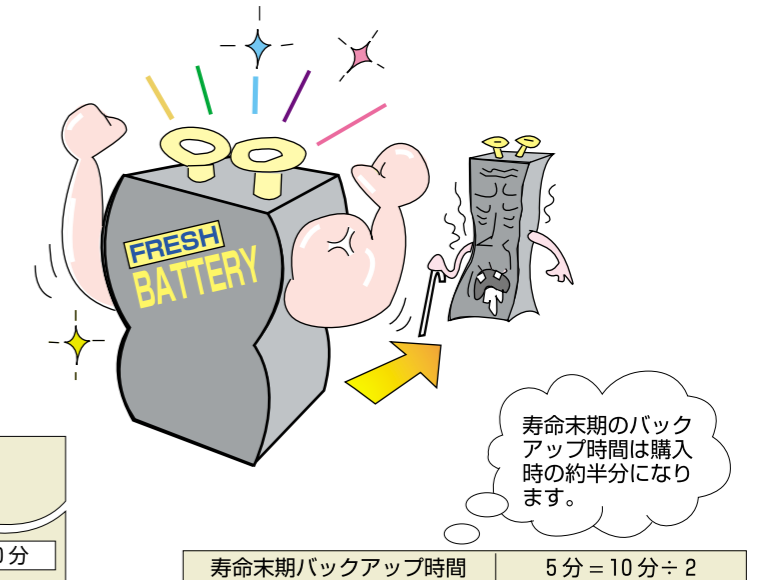
バッテリーは長年使用していると電気エネルギーを蓄積できる能力が徐々に低下し、その能力が半分になったときが寿命とされています。

UPSに使われるバッテリーの交換時期の目安は、バックアップ時間が購入時の約半分になったときです。それ以降は短期間に能力が減少します。

購入時、定格負荷をかけた時のバックアップ時間を示しています。

取扱説明書(例)

バックアップ時間 10分



3. 計画的な交換

■バッテリーには寿命があります

UPSに使用されるバッテリーには寿命があります。小形のUPSでは、期待寿命が大別して1~3年の従来品と、2~5年の長寿命品、あるいはそれ以上のものがあります。

温度が上昇するような環境での使用は、バッテリーの寿命を短くします。

交換時期を過ぎたバッテリーを使っていると

- 1) UPSは普段と変わりなく働き続けますが、瞬時停電などが発生したときにUPSの出力が止まります。
- 2) バッテリーの容器が割れ、液が漏れたり、異臭、発煙、発火などの二次障害を引き起こす原因となります。

これらの現象を防ぐために、寿命が尽きる前にバッテリーの交換をお願いします。

■計画的なバッテリー交換でいつもリフレッシュ

取扱説明書、各種ラベルに従い、使用期間を超える前にバッテリーを交換してください。(従来品では1~3年、長寿命品では2~5年を目安)。バッテリー以外にもファンなどの消耗品の交換は購入後3年目をめどに、交換をご計画ください。さらに、1年に1度の定期点検をお勧めします。詳細につきましてはメーカーにお問い合わせください。

